

白岩龍平 しゅういはい 實業家。明治二年七月九日備前國生れ（一八七〇—）。  
號子雲。上海の荒尾精生に在り清貿易研究所卒。日清戦争の大本營附通  
譯官として従軍。のち日清合辦の大東汽船會社を創立、明治四十二年  
改組した日清汽船會社事務取締役就任。次いで海澤榮一と日清起業調査  
會を興すなど日支經濟提携に努めた。東亞同文會理事長、日華學會理  
事等歴任。妻白岩艶子（西藏山の二女）は歌人として著名、自らも漢  
詩を作る。

著書の「コトと世の聲」（白岩正伴翁の喜壽の賀）、「（明治二十九年二  
月十二日自編刊）」、「列國競争の焦點地揚子江沿岸」（大正五年十一月十一日  
富山房「時事叢書」）、「我が海外貿易と日支經濟關係」（安川雄之  
助共著、昭和二年八月）、「日國際聯盟協會」「國際聯盟協會叢書」等。

